



—2018年度 環境活動ハイライト— 光の価値を創造し 未来を明るく照らすために

ここでは、スタンレーグループが取り組んだ
新たな環境活動や注目すべき活動についてご報告します。



75%の省電力を実現

Gold Wing向けヘッドランプ・リアランプのフルLED化

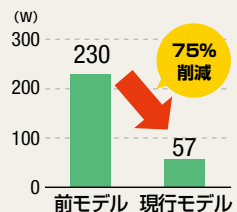
本田技研工業株式会社様の新型「Gold Wing」のヘッドランプ・リアコンビネーションランプに当社製品が搭載されています。ヘッド・リアランプ共にフルLED化されており、消費電力の低減・軽量化に貢献しています。

ヘッドランプのロービームではLED多灯モジュールによりきらめきのある光の表情を実現。空力性能の向上に寄与し、導光ポジションランプでは微細カットを施し立体的な均一発光を可能にしたシグネチャーランプとなり、高級感あふれるデザインと機能の両立を実現しています。

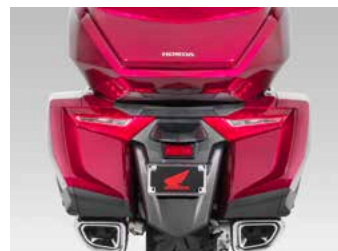
またリアコンビネーションランプは、「ゴールドウイング」の名にふさわしい翼をイメージしたデザインになっており、テール・ストップ・ターン機能において当社の持つ均一発光技術を活かし、車両後方からもフラッグシップモデルにふさわしい意匠性を演出しています。

またリアコンビネーションランプは、「ゴールドウイング」の名にふさわしい翼をイメージしたデザインになっており、テール・ストップ・ターン機能において当社の持つ均一発光技術を活かし、車両後方からもフラッグシップモデルにふさわしい意匠性を演出しています。

ヘッドランプ1灯あたり消費電力



Gold Wing Tour



ワンタッチ操作で、
のぞき見による情報漏えいを防止
世界初のプライバシー機能内蔵
PC用バックライトを開発

当社が世界で初めてプライバシー機能内蔵PC用バックライトを開発し、プライバシースクリーンとしてヒューレット・パカード社様に採用されています。

これまでの一般的なのぞき見防止フィルムは装着・着脱および持ち運びの時間に加え装着時の輝度低下により視認性が下がる難点がありました。当社のバックライトユニットは、ディスプレイに内蔵し、ワンタッチの切り替えで、左右から見た際にディスプレイを白濁させることで、のぞき見による情報漏えいを防止できます。明るい場所での認識性にも優れた高輝度ディスプレイとなっており、プライバシー機能を持たせつつ、省電力・薄型・軽量化を図っています。



正面以外の角度からの視認を遮るPC用バックライト



—2018年度 環境活動ハイライト—

光の価値を創造し未来を明るく照らすために



開発協力/株式会社石井幹子デザイン事務所
企画・プロデュース/石井幹子&石井リーサ明理



わずかな電力で遠くまで金色に照射可能
世界初の金色光のLED投光器を開発

当社のLED投光器は、銀座・歌舞伎座や北米・ナイアガラの滝などの歴史的建造物や世界有数の観光名所などさまざまなものをライトアップし、その魅力をさらに輝かせてきました。
この度、世界で初めて金色光のLED投光器を開発し、日本のみならず世界各地で採用され金色の光で包みこみます。



エッフェル塔をライトアップ

日仏友好160年を記念した「ジャポニスム2018」のハイライト公式企画である「エッフェル塔特別ライトアップ 日本の光を纏う」に当社の金色LED投光器が採用されました。世界的照明デザイナー・石井幹子氏と石井リーサ明理氏のプロデュースにより、国宝・尾形光琳の『燕子花図屏風』がエッフェル塔に映し出され、当社の最新技術で金地を延長するかのよう塔をライトアップし、「光の都」の夜をさらに華やかに彩りました。

今回、低電力でLEDの光を効果的に絞った超狭角配光金色LED投光器を120台用いてますが、7kWほどの電力（ドライヤー6台分）でエッフェル塔を均一にライトアップしました。環境に優しい製品で歴史的ライトアップを成功へと導きました。



平等院鳳凰堂を投射

世界遺産である京都にある平等院様では、毎年秋に夜間特別拝観を実施しています。夜間の観光をさらに盛り上げ、これまでとは違うことを行いたいとの考えから、当社の世界初・金色光のLED投光器による投射を提案し、実現しました。

鳳凰堂（国宝）において、堂内中央の本尊・阿弥陀如来坐像（国宝）を金色LED小型投光器で、その屋根の鳳凰（国宝）を超狭角配光金色LED投光器でそれぞれ照射し、金箔で覆われた像を金色に照らすことで、さらに見事な輝きを放ち、闇夜の中に神秘的に浮かび上がらせました。



©平等院



◀Voice

エッフェル塔の特別ライトアップを実現！

横浜技術センター 設計部門
山崎 良介さん

限られた台数でエッフェル塔を均一にライトアップさせるために、1°単位での投光器の照射方向の調整に苦労しましたが、わずか7kWの電力でエッフェル塔を金色に染め上げることができました。今回の経験を基に今後も環境に優しい製品設計に取り組んでいきます。



—2018年度 環境活動ハイライト—

光の価値を創造し未来を明るく照らすために



持続可能な社会の実現に向けて

当社の環境活動と「持続可能な開発目標 (SDGs)」

スタンレーグループでは、事業活動を通じた持続可能な社会の実現に向けて取り組みを進めています。

2015年9月には国連で環境や健康・人権・貧困・平等などさまざまな社会課題を解決する17の目標と169のターゲットにより構成された、持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) が採択されました。これは2030年までの「あらゆる人々の目標」と位置付けされ、あるべき姿を示しています。グローバルに事業を展開するスタンレーグループとしては、当社の環境活動とSDGsとの関連性を整理し、17の目標のうち4つの領域で主に右図のような取り組みを推進しています。また階層別研修やeラーニングシステムを活用した社員への啓発なども毎年実施しています。今後優先的に取り組むべき重要課題を検討するうえで、事業活動が及ぼすリスクと機会を十分考慮しながら、中長期的な成長を支える基盤づくりを進めていきます。スタンレーの「光の価値の限りない追及」により製品・サービスを通じて、持続可能な開発目標の実現に取り組んでいきます。

SDGsの目標		スタンレーグループの主な取り組み
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● UV冷陰極管・深紫外LED製品による安全な水の提供 ● 有害な化学物質の削減による水質保持 ● 水のリサイクル 等
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>すべての人々の安価かつ手ごろで信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギー (太陽光) 導入・利用拡大 ● 省エネルギー活動による使用エネルギー削減 等
<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>持続可能な生産消費形態を確保する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 大気・水質・土壌汚染の法規順守 ● 製品の小型化・軽量化、含有化学物質の管理 ● 廃棄物発生量の削減・リサイクル率の向上 等
<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● LEDヘッドランプ・LED照明等による省エネルギー製品の提供 ● 原材料・生産活動・物流・製品使用の各段階におけるCO₂排出量の削減



水リスク評価を開始

スタンレーグループ 生産拠点における水リスク

近年、人口増加や地球温暖化などの影響により、水不足や水質汚染・洪水などの多様な水問題が深刻化し、それらの水リスクに対する取り組みが重要な課題となっています。

スタンレーグループでも、ヘッドランプ製造での塗装工程や半導体製造工程・生産設備の冷却など多くの工程で水を利用しています。そのため、グループの主要生産拠点における水リスク評価を実施しました。今後も、拠点の新設や事業環境の変化などに応じて水リスクを評価し、必要に応じた水使用削減施策を講じていきます。

▶ 詳細は23ページ